

ニュースレター

No.18 2010年12月16日

世界におくろう 愛と 希望の車いす

希望

希望。

私たちの活動は古い車いすを新品同様に整え磨き贈ることでありますが、その過程で様々な希望が生まれます。車いすと共に贈る希望は受け取ったその方々の生活を変え、関わってくださっている多くのボランティアの方々的心にも同じ希望として生まれ育ちます。

今年は希望の車いすとして初めてのツアーを行いタイへ行きました。また、コンテナを使った車いすの寄贈がフィリピンとタイにできました。そして、希望の車いすの社会貢献が認められ表彰されるというに名誉な出来事もありました。

しかし、難題にぶつからなかったというわけではありませんでした。私たち得てしてそのような時のことを忘れてしまいたいと思いがちですが、それを通し多くのことを学ぶということはよくあります。社会貢献支援財団の表彰式が行われた森ビルの石碑をボランティアの方が撮影してくださっていましたが、そこには聖書から引用された言葉が刻まれていました。

「そればかりではなく、患難さえも喜んでいきます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。」 聖書 ローマ人への手紙5章3-5節

2011年にどのような出来事があるのかはまだわかりませんが、この活動とまたそれを支えてくださるお一人お一人が希望をもち、歩みつづけてくださることを心から願っております。

希望の車いす 理事長 メリー・ペナー



110台届けました！

タイの政情不安で延期となっていた出荷の日がようやく来ました。9月7日10時、江古田の作業所に20フィートのコンテナが到着し、積み込みが始まりました。ボランティアの皆が時間をかけて丁寧に整備した色んなサイズの110台の車いすには、一台ずつ詳細を記入したカードがつけられています。受けていただけるよう、願いを込めて皆

取った方に喜

で積み込んでいきました。コンテナを手配してくださった伊藤忠ロジスティクス(株)の方々も一緒に汗を流してくれました。コンテナは9月末に無事チェンマイのRICD(タイの公衆衛生省傘下の児童発達支援組織)に到着しました。10月12日にはRICDの方々が江古田に来られて、ビデオで車いすが喜んで受け取られている様子を報告してくださり、ボランティア一同大変うれしく、また勇気づけられました。

<P2へ続く>



お知らせ

新年のクリーニングデイは
1月11日スタートです

伊藤忠商事株式会社の社内報(2010年11月)に
チャンマイRICDでの
コンテナへの車いす寄贈の記
事が載りました。



車いす贈呈 4月-12月1日

5/18	ベトナム	1台
6/15	タイ	2台
6/21	モンゴル	1台
6/29	ベトナム	1台
7/13	タイ	1台
7/14	マレーシア	1台
8/11	韓国	1台
8/11	中国	2台
8/25	ベトナム	3台
9/7	タイ	110台
9/24	ベトナム	1台
10/14	タイ	1台
10/14	マレーシア	1台
10/15	モンゴル	2台
10/18	カンボジア	1台
11/1	カンボジア	1台
11/9	モンゴル	1台
12/1	カンボジア	1台

タイに110台届けました！

<P1続き>

スタートして10年たち、私達の活動が広がるにつれて、必要な資金をどうやって調達するかが課題になっていますが、今回のコンテナの輸送費用は伊藤忠商事グループが社会貢献事業として全額ご寄付くださいました。始まりは昨年秋に(株)ITCNアシストの社員の方々がクリーニングデイに参加されたことです。以来毎月第四土曜日には車いすの磨き、部品交換や整備のボランティアに加わってくださるようになりました。このことが親会社のITCN(株)からその親会社の伊藤忠商事(株)に伝わり、今年4月に両社のCSR責任者の方々が江古田まで来られました。そして、私達の活動の意義と輸送費の問題をご理解いただき、グループとしてご支援いただけることになりました。輸送を担う伊藤忠ロジスティクス(株)の方は費用削減や通関手続き等を親身になってご指導くださり、しかも、輸送



費用は全て伊藤忠商事(株)とITCN(株)様にご負担下さることになりました。また伊藤忠商事(株)、ITCネットワーク(株)様、伊藤忠タイ(株)の皆様は法人会員に加入してくださいました。チャリティーコンサートや社会貢献者表彰にもご出席いただき、私達の活動の様子を社内にも紹介していただいています。

このように大変心強い支援を得て、目下次のコンテナ出荷の計画に着手しています。

使う方のことを思って品質にこだわりながら、少しでも多くの方に車いすと希望を届けられるように、これからも活動の輪が広がっていくことを願っています。 MT



タイ・チェンマイRICDの所長来訪

希望の車いすは、タイのチェンマイにあるRICDというタイ王立の病院施設と親密な関係を築いています。2010年3月に、ボランティア数名が車いすを持って実際に施設を訪問しました。同年9月には、コンテナで110台の車いすと歩行補助器具等を送りました。今回、10月12日にRICD院長であるサマイ氏が、お嬢様二人と病院職員二名を連れて初めて訪日され、お忙しい時間の中、私たちの作業場がある江古田の聖書キリスト教会を訪れてくださいました。

RICD内には「車いすプロジェクト」と称する活動があり、使われなくなった車いすの回収、クリーニング、整備といった作業を、宣教師たちがボランティアとして行なっています。サマイ氏のお嬢様もボランティアとしてその活動に加わっていらっしゃいます。今回、「車いすプロジェクト」に関わっておられる方から、サマイ氏を通して次のようなメッセージをいただきました。「『希望の車いす』から届けられる車いすは、どれも大変きれいで、いつも驚かされています。私たちは、使う人に合わせるよう車いすを微調整すること以外、どこにも手を加えることなく、届いた車いすをそのまま使うことができるので、大変な感銘を受けています。」と。クリーニングの経験をお持ちのサマイ氏のお嬢様は、どこでどんな風にして新品同様なまでに車いすを磨いているのか見てみたいと、今回興味津々で訪問されました。そして、私たちボランティアと顔を合わせる事ができたこと、そして作業場を見学できたことを、とても喜んでおられました。一度は使われなくなった車いすがクリーニング・整備されて病院施設内で再び使われている現実、しかもそれらがすべてボランティアの手による無償の奉仕の結果であるという事実、そのことが、王立施設で働くタイ政府関係者にはどうしても信じられないそうです。そんな政府関係者を横目に、サマイ氏は、誇りと感謝をもって車いすを使っていますと、語ってくださいました。私たちも、今回のサマイ氏の訪問に感銘を受け、そして

いただいたメッセージにとっても励まされました。



11月3日希望の車いすチャリティイベント

希望の車いすの活動にご賛同ご協力くださっている方々、ボランティアの方々など総勢126人がご参加下さり、アジアン料理、スティーブ・サックス氏のジャズコンサート、サイレントオークションを楽しんでいただきました。

イベントの最初には希望の車いすのPRビデオをご覧頂き、理事長よりごあいさつをさせていただきました。以下理事長のあいさつを記載します。

車いすがあれば動くことができる、希望が持てる、人生が変わる。私たちはこんな車いすの可能性を信じている人々が、手を取り合っているネットワークです。日本で使われなくなった車いすを回収し、必要としている人々にギフトとして送っています。回収した車いすは、クリーニングされ、念入りに整備されて、海外に送り出されます。

この働きは、山形県に住んでいた3歳のダニエル君が、病にかかり車いすの生活を余儀なくされた時から始まりました。障害を持つ子供のための医療システムが日本には確立されているので、ダニエル君はその恩恵を受けることができました。しかし、世界には適切なサポートを受けられない人々が2千万人いると言われていています。障害のある人は車いすがなくては、孤独のまま、社会とのコンタクトが取れません。障害者の人生を奪ってしまうだけでなく、社会もその人に活躍の場を提供できないのは損失です。

ダニエル君の母親は、日本で育児ができたことを心から感謝していました。同時に、車いすを必要としている人のところに、なんとかして届けたいという想いが強くなりました。2000年の秋ごろから友人と使われなくなった車いすを回収し始め、話し合いをすすめました。以来、今日までに12のアジアの国々に550以上もの車いすが届けられました。プロジェクトが大きくなるにつれ、2006年には理事会が形成され、2008年にはNPO法人の認証を得ました。

クリーニング・整備して贈呈した車いすには、子どもや年老いた方が乗ります。ですから、私たちは新品同様にクリーニングするよう心がけるだけでなく、整備作業にも細心の注意を払います。ボランティアは高い基準と厳しい目で作業します。

車いすの輸送に関しては、ある航空会社は、規定の重量を超えていても無料で運べるよう便宜を図ってくれます。旅行者が車いすを飛行機で運搬する場合は、定められた重量以内で持ち込むことが求められますのでスーツケースをあきらめて、自分は機内持ち込みの手荷物だけにして、車いすを運んでくださる旅行者もいます。

もう一つの方法は船でコンテナ単位で100台以上まとめて運ぶ方法です。

これまでに20フィートコンテナで沢山の車椅子をモンゴル、フィリピン、タイに、船会社と商社のご協力を得て届けました。伊藤忠商事グループからは社会貢献活動の一環としてタイへの輸送費を全額支援して頂き、心から感謝しています。来年早々にはカンボジアにコンテナで送る予定です。

私たちは自らも向上させようと、12月には理学療法士を招いて体に入った車いすという話をうかがう計画もあります。一方で資金集めの方策には苦労が絶えません。そうした中で、聖書キリスト教会が会堂5階部分が無償で私たちに提供してくださっていることは、大きな助けです。

また、車いすを受け取る国々で、包括的なアプローチをしてくれるパートナーを求めています。ただ届けるだけではなく、その後もちゃんと使われているか、不具合はないかなど、定期的に点検訪問をしてほしいと願っています。そうすることで、車いすを売ってお金にするなどということが、されないようにしたいのです。こうしたパートナーから、車いすを受け取った人の写真やビデオを送ってもらい、車いすの元々の提供者に見てもらいたいです。

日本国内でも、パートナーシップを構築し地域社会とのつながりを大切にしていきたいと願っています。様々な技術や才能を持ったボランティアが集まっています。この働きは、その技術において、誠実さにおいて、意欲において向上し続けています。車いすを通して、もっともっと多くの人に希望の贈り物を届けたいと願っています。



オークションに出品された
車いすを贈呈したマレーシアの男の子の絵



クリーニングデイに強力な助っ人が来てくれました！



ボヴィス・レンドリース・ジャパンという会社から、総勢58名の社員の方々が車いすのクリーニングに来られました。いえいえ、もっと正確に言いますと、お仕事の関係者から破棄される予定の車いすがあると聞くと、社員2名の方がそれらを回収しに千葉まで車を走らせてくださいました。そして、まだ使えると思われる19台の車いすを回収し、10月の初旬に江古田の私たちの作業場まで持ってきてくださったのです。そして、その車いすを皆でクリーニングしようと、10月19日と26日の2週間にわたって、参加をくださったのです。当日はボランティアとして来られましたが、会社としてはクリーニングデイに参加したことは勤務とみなす、というので出欠を取る徹底振りでした。もちろん、皆さんが一度に来られたのではなく、午前と午後に分かれて2週にわたって来られました。ほとんどの方が、初めて

の参加でしたが、皆さんおそろいのブルーのTシャツを着てテキパキと作業してくださいました。でもハプニングもありました。ひとつの作業台に2台の車いすを乗せてクリーニングしていました。午前の部の人たちが車いすを分解して、午後の部の人たちにバトンタッチしたのですが、意思疎通がうまくいかず、どっちの車いすにどのタイヤがついていたのか組み立てる段階になって、午後の部の人たちがしばらく議論するはめになったのです。でも、試行錯誤を繰り返してちゃんと元通り組み立てることができました。2週目にはボヴィスの社長さんも参加して一緒に作業してくださいました。上司・部下の関係を忘れて、みんなで一緒に働いて15台の車いすのクリーニングと整備を終えました。

社会貢献支援財団から表彰を受けました

11月16日東京赤坂にあるANAインターコンチネンタルホテル東京にて、公益財団法人「社会貢献支援財団」による第40回社会貢献者表彰式が行われました。223件の候補者の中から50件が選ばれ、その中に私たち希望の車いすが受賞されましたことは、理事長をはじめ、提供してくださった方々、クリーニングされた方々、運んでくださった方々など多くのボランティアの皆さんのご協力してくださった結果であると思います。表彰された50件の中から4、5件の活動がDVDで紹介しましたが、希望の車いすの活動が会場に映し出された時は、協力してくださった方々のことを思い胸が熱くなりました。

これからも今までのように、車いすを必要としている方々に真心と願いを込めた車いすを一台でも多く届けさせていただき、一つでも多くの笑顔が生まれることを期待しつつ新たな思いを抱きました。

10月31日 第11回水戸クリーニングデイ報告

水戸市の水戸聖書バプテスト教会を会場に、第11回クリーニングデイが行われました。今回は大学の文化祭準備などのため参加者は13名でした。4台の車いすを磨くことができました。

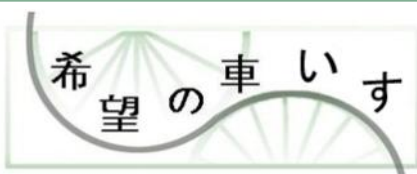
水戸のメンバーは、大人だけでなく、子ども、高校生、大学生も参加しています。皆さん楽しく、一生懸命活動しています。クリーニング後は、ティータイムの時間があり、用意された手作りのおやつやお菓子をいただきながら、楽しく話し合っています。次回は2011年1月30日です。来年も磨きまーす！

ご協力、ご寄付ありがとうございました

伊藤忠商事株式会社、アイ・ティー・シーネットワーク株式会社、株式会社ITCNアシスト、ITOCHU(Thailand) Ltd.、ボヴィス・レンドリース・ジャパン Bovis Lend Lease Japan、有限会社 カリス・アイエリ、日本ウィールチェア株式会社、TAKAYAMA BEACH CO.、千葉県立松戸特別支援学校PTA、豊島区社会福祉協議会、水戸針灸院、救世軍恵泉ホーム、NPO Vハート、聖書キリスト教会、保守バプテスト津田沼教会、水戸聖書バプテスト教会、保守バプテスト 日本宣教団、山形ろう者キリスト教会、久留米キリスト教会、東かがわ家の教会、ぶどうの木聖書教会、アンテオク宣教会、中庭 由美子、佐藤 良子、長洲 孝勝・克子、坂田 仲市、永井 匠、湯浅 玲奈、川崎 透・陽子、佐藤 照雄・幸子、市川 尚子、宇佐 公興、中澤 博子、森本憲夫・豊子、南田 政浩、上山 のり子、武田 圭子、藤巻真弓、川崎 廣、安立 和子、貝塚 清美・麻名、Hilary Jinno、ペナー・マーク、メリー、関 久子、菅野 徹、若井 和正・千鶴子、和田 浩

2010年度会計報告 2010.04.01~2010.11.30

収 入		支 出	
団体寄付金	610,189	事務管理費	1,719,755
個人寄付金	499,258	事業費	676,898
企業寄付金	760,236	※事務管理費：	
集会寄付金	500,800	事務手当、広告宣伝費	
個人会費	149,000	※事業費：	
団体会費	50,000	輸送費	
助成金	500,000		
雑収入	6,249	計	2,396,653
計	3,075,732	繰越	1,297,659
繰越	618,580	合計	3,694,312
合 計	3,694,312		



発行責任者：メリー・ペナー
 事務局：〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-12-3 聖書キリスト教会内 5階
 Tel / Fax：03-5934-4004
 Eメール：info@k-kurumaisu.org
 ホームページ：www.k-kurumaisu.org
 郵便振替：00180-3-686314 NPO法人希望の車いす
 銀行振込：みずほ銀行 本八幡支店 普通1130823 NPO法人希望の車いす